

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」
に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 加藤 雅志

国立がん研究センター がん対策情報センター がん医療支援部 部長

研究要旨 「がんゲノム医療」には、患者を中心とした国民から多大な期待がなされているが、正確な情報提供が不十分であり、誤解も多くある。本研究では、がん相談支援センターのがん専門相談員にインタビューを行い、がん患者や一般の方々ががんゲノム医療に関連して抱いている疑問について整理を行い、今後求められる情報発信のあり方について検討を行う。

A. 研究目的

「がんゲノム医療」には、患者を中心とした国民から多大な期待がなされている。一方、正確な情報提供が不十分であり、一般の国民には適切な理解が難しいため、誤解も多くある状況が続いている。本研究では、日頃からがん患者をはじめとした一般の方々からのがん相談に対応をしているがん相談支援センターのがん専門相談員にインタビューを行い、がん患者や一般の方々ががんゲノム医療に関連して抱いている疑問について整理を行う。

B. 研究方法

国立がん研究センター中央病院相談支援センターに勤務するがん専門相談員を対象に、「がんゲノム医療」に関連して受ける相談内容についてインタビューを行い、その内容について分析を行った。

(倫理的配慮)

本研究は、医療者を対象とする調査であり、国立がん研究センターの研究倫理審査の対象外ではあるが、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に従い調査を実施した。

C. 研究結果

「がんゲノム医療」に関連して、以下の10項目の内容の質問を受けることが明らかになった。

- ・がんゲノム医療とはどういうものか
- ・がんゲノム医療を受けるにはどうしたらよい か
- ・がんゲノム医療を受けたい (治療がすぐに受けられると考えている)
- ・がんゲノム医療の対象者はどれか (がん種、病期、治療後など)

- ・受診時に準備するものは何か
- ・診療科ごとの担当医師は決まっているか
- ・費用はどのくらいかかるのか
- ・解析の方法はどんなものか (血液検査や組織検査か)
- ・解析にかかる時間はどれくらいか

- ・解析後、どれくらい治療につながるのか

D. 考察

「がんゲノム医療」について、テレビなどで特集番組が放送されるとがん相談支援センターへの相談の件数が増加する状況が続いている。相談をしていく方々の背景をみると、自身ががんゲノム医療の対象となるかどうかについて知りたいという状況である方が多く、今後、このようなニーズにどのように対応していくかが課題だと考えられる。

E. 結論

「がんゲノム医療」の情報発信に関しては、一般的な情報提供と、個別的な状況に活用される情報提供とがあることを意識し、日々更新されていく新たな情報をどのように提供していくかが重要である。

F. 研究発表

なし

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし